

平成27年度、福岡県には年間1億1,807万人の観光客が来ており、宿泊客は前年比127%となっている。そんななか、バックパッカーの間で評判となり稼働率を上げているのが「ゲストハウス」や「ホステル」。各施設は、そこにしかないサービスや空間で差別化し、100床以上の大型ゲストハウスも出てきた。今回は、日本で初めて最先端IoTデバイスを集結させたスマートホステル取材した。



多様な国籍の人々で賑わうダイニングラウンジ



IoT搭載ルームは4部屋(ここは1泊12,800円 税抜)

日本初!最先端IoTデバイスを集結させた スマートホステル「&AND HOSTEL FUKUOKA」

川端商店街の通りに面している飲食店は、スマートホステル「&AND HOSTEL」のダイニングラウンジ。その横に宿泊用の受付カウンターがあり、手狭に並んだスーツケースが目を見張る。施設のオーナーは、太陽光発電などを手掛けるベンチャー企業で、ホステルの運営は、一般客も利用できるラウンジを含め、こちらもベンチャー企業が行っている。宿泊客には、語学に長けた少数精鋭のスタッフで対応し稼働している。ホテルの稼働率は7割と言われるなか、ここは9割もあり、利用者の8割以上が海外のゲストというだけあって、新しいサービス、ホステルとしての機能がうけているようだ。

ここには、IoT搭載ルームが4部屋あり、複数の最先端IoTデバイスを体験できる。チェックインの際、スマートフォンを渡され、インストールされたアプリを使って、部屋の鍵管理、照明や空調・TV、スマートアイグラスを使った観光体験等の調整操作ができる。IoTプラットフォームは、大学やNPOなどとも連携し、実証実験的な要素もある。一度、IoTを使った近未来の暮らし方を体験してみてもどうだろう。

※IoT(英語: Internet of Things, IoT)とは様々な「モノ(物)」がインターネットを介して情報交換することにより相互に制御する仕組みのこと。2020年には全世界で約500億、国内だけでも27.5億ものデバイスと繋がると言われている。



壁に設置された「デジタル窓」。鳥の鳴き声、森、海など、世界を旅することができる



IoTで動くロボット、音と光・アロマで快眠を誘導できる機器も操作できる



ドミトリールームは複数人宿泊できる



代表の柴田 大輔さん「ホテルの1/3の金額で利用できるのが大きなメリット。ゲストハウスビジネスは若い人でもチャレンジできるので、まだまだ増えていくと思う」と語る代表の柴田さんは、キャナルシティ博多の近くに130人収容できる「THE LIFE」もオープンさせている。

「ホテルの1/3の金額で利用できるのが大きなメリット。ゲストハウスビジネスは若い人でもチャレンジできるので、まだまだ増えていくと思う」と語る代表の柴田さんは、キャナルシティ博多の近くに130人収容できる「THE LIFE」もオープンさせている。



- 〈施設名〉スマートホステル「&AND HOSTEL FUKUOKA」
- 〈所在地〉福岡市博多区上川端町10-5
- 〈電話〉092-273-0770
- 〈ホームページ〉<https://andhostel.jp/fukuoka/>
- 〈宿泊定員〉48名
- 〈延泊面積〉1~3F 381.78㎡